

次世代を担う子供たちの育成を目指して ～新しくなった学力向上プラン～

県教育庁教育振興部学習指導課

1 千葉県教育を取り巻く現状

(1)新学習指導要領の全面实施

今回の学習指導要領改訂は、Society5.0時代の到来を見据えた、今後10年間の我が国の社会を展望して改訂されており、今までの改訂よりも大きな変更となっている。

特に、これからの学校においては、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現により、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開するとともに、すべての教科等で育成する資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つとして、一人一人に生きる力を確実に育むことが求められることとなった。

(2)千葉県における教育施策

千葉県においても、令和2年2月に「次世代へ光り輝く『教育立県ちば』プラン」を策定した。

学力向上施策に關しては、施策1「人生を主体的に切り拓くための学びの確立」の中に、「ちばっ子『学力向上』総合プランの策定」が示された。

「ちばっ子『学力向上』総合プラン」については、平成23年度から昨年度まで「ちばっ子『学力向上』総合プラン（ファイブ・アクション）」として

取り組んできたが、ここまで述べてきた教育の現状を踏まえ、令和2年度から、新しい総合プランを策定し、学力向上に取り組んでいくことになった。以下に、新しい総合プランについて述べる。

2 新しい総合プランの策定

(1)概要

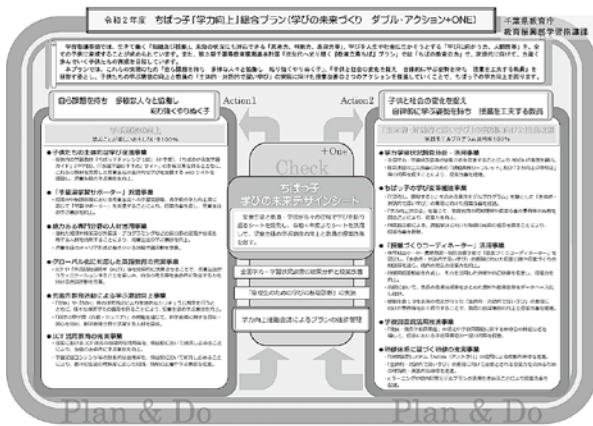
令和2年度から、第3期千葉県教育振興基本計画の実現を目指し、新学習指導要領が求める「生きて働く『知識及び技能』」、「未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力等』」、「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、表現力等』」を千葉県のすべての児童生徒に育成することを目的に、「ちばっ子『学力向上』総合プラン（学びの未来づくり ダブル・アクション＋ONE）」として、新たにスタートした。

旧プランは五つのActionと29の事業で構築されていたが、新プランでは、二つのActionと11の事業に再構築した。

Action 1 では児童生徒の育成に、Action 2 では教員の指導力向上に重点を置いて構成している。

さらに＋ONE（プラス・ワン）として、「ちばっ子『学びの未来デザインシート』」事業に取り組む。以下、それぞれの概要について述べる。





新プランの事業一覧(※)

(2) Action 1 「自ら課題を持ち 多様な人々と協働し 粘り強くやりぬく子」

Action 1 は、「子供の学ぶ意欲の向上」の実現を支援する六つの事業で構成した。

- ①子供たちの主体的な学びの促進事業
- ②千葉県学習サポーター派遣事業
- ③魅力ある専門分野の人材活用事業
- ④グローバル化に対応した英語教育の充実事業
- ⑤先進的教育活動による学ぶ意欲向上事業
- ⑥ICT活用教育の充実事業

(3) Action 2 「子供と社会の変化を捉え 自律的に学ぶ姿勢を持ち 授業を工夫する教員」

Action 2 は教員の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実現を支援する五つの事業で構成した。

- ①学力学習状況調査分析・活用事業
- ②ちばっ子の学び変革推進事業
- ③「授業づくりコーディネーター」活用事業
- ④学校図書館活用推進事業
- ⑤研修体系に基づく研修の充実事業

(4)+ ONE (プラス・ワン) 「ちばっ子学びの未来デザインシート」

+ ONE (プラス・ワン) では、PDCAサイクルのCheckの過程を担う事業で構成されており、全国学力・学習状況調査の結果分析や学力向上推進会議による各事業の進捗管理と評価などの事業に取り組む。

その中でも、子供たちと教員等がそれぞれの学びを振り返り、「子供たちの学ぶ意欲の向上と教員の授業改善を促す」ことができる調査問題(デザインシート)や評価システムの開発を行う「ちばっ子『学びの未来デザインシート』事業」に新規に取り組む。

これは県内の小学3年生～中学3年生を対象に、当該学年の2学期までの学習内容や能力を活用して、身近にある具体的な文脈で作成された課題を解決できるかを問う学力調査を実施することを想定しており、学んだ知識をどれだけ覚えているかというような学力調査とは異なるものを目指している。

スケジュールとしては、令和4年度から正式に実施するための準備を今年度から進める。

3 おわりに

変化の激しいこれからの時代を担う子供たちと、新しい教育内容に対応した教員の育成に向けて「ちばっ子『学力向上』総合プラン」を策定した。

先生方においては、教育立県ちばの推進に向けて、この総合プランを積極的に活用していただきたい。

※千葉県教育委員会 Web サイト

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/2019/sougoupuran/r2gakuryokukoujyousougoupuran.html>

県立関宿城博物館25周年記念企画展 「関東のへそ～地勢とくらしのヒストリー～」

県立関宿城博物館

関宿は関東平野と関東地方の真ん中付近にある。また河川も集中しており、文字どおり「へそ」のように低い場所である。縄文時代には海進により、東京湾が関宿付近まで広がっていた。その後、海が後退しても河川の脇に米作りに適さない北総台地があり、農地の開発が進まないという特徴があった。

日本の交通事情は、河川も含め、水陸両面で発達した。古代から関宿の東側には、常陸川から細長い谷に沿って手賀沼、印旛沼、霞ヶ浦を巻き込んだ香取海^{かとりのかみ}という大きな内海が銚子に向けて広がっていた。また西側には太日川^{ふとひがわ}が流れ、その先には武蔵国があった。香取海は、香取神宮を中心に流通が盛んで、近くを古代の官道が通り、栄えていた。中世半ばには、東武蔵を経て下総、上総、常陸への道ができ、関宿周辺も人の行き来が多くなる。

中世に登場する武士団は、町場と交通網を作り、自身の所領の水田の改良や新たな農業技術の導入により生産性を上げていった。関宿は下総国葛飾郡下河辺荘庄内領^{しもこうべのしょうしょうないりょう}に属し、下河辺氏が古河・水海^{みずうみ}・関宿に拠点をおく。その後、水海と関宿に水運を熟知した領主・築田氏^{やなだ}が入り、室町時代中期、足利成氏が古河公方として古河に移り住んだ。

関宿は古河と目と鼻の先にあり、利根川、太日川と常陸川が最も近づく場所で、水陸両交通を持ち、防衛の拠点として重要な場所だった。「一国に匹敵する」と賞され、一躍歴史の表舞台に登場する。まさしく、河川が行き交う「へそ」の土地であるが故である。

関宿が重要な場所であることは、近世になっても変わらない。関宿藩に譜代大名がおかれ、

人為的な地勢変化である利根川東遷によって関所や街道がつくられ、関宿は流通、防衛、商業の面から発展を遂げていく。舟運が開け、江戸と関東内陸部・奥州との物資の輸送が盛んになった。利根川周辺では、江戸に近い地の利を生かし、醸造業なども興った。

しかし一方で、この東遷は関宿周辺を水害常襲地帯にし、そのため、水防施設である水塚^{みづか}が多く造られることになる。

近代以後は、都市部を中心に西欧技術による町づくりが進み、地勢に直接関わった生活や職業の形態が縮小していく。関宿は舟運で栄えた場所で、猿島茶^{さしまちや}の輸出がうまくいかなかったこともあり、鉄道の敷設がなかった。また明治政府が水害対策を主にした河川法を制定したため、舟運は徐々に衰退し、農村地帯になっていく。しかし関東西部や千葉県南部に比べると農地に利用されていない土地も多かったため、高度経済成長期以降の高速道路の整備で、関宿周辺にも近年圏央道が通り、工業団地等が増えている状況である。これもまた地勢との深い関わりといえよう。



猿島茶の風景（茨城県境町）

近代では公害問題、現代では環境問題がクローズアップされ、地勢から離れたくらしになって以降、自然に背を向けたつけが、訪れている感がある。関宿周辺では、いまだ豊かな自然が残っている。地勢と歴史の流れに深く関わってくらしを発展させてきた関宿が、今後どうなるのか、興味深い。詳しくは、

<http://www2.chiba-muse.or.jp/SEKIYADO/>

千葉県児童生徒・教職員科学作品展から全国展へ

県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育担当

県総合教育センターでは、「千葉県児童生徒・教職員科学作品展」を実施し、特に優秀な作品を全国展に出品しています。

令和元年度の全国展では、千葉県から出展された作品が数多く特別賞に輝きました。その中からいくつかを紹介します。

★第56回全国児童才能開発コンテスト科学部門

・中央審査会委員長賞

「オオバコはふまれたいのか

ー2つの観察と2つの実験でオオバコの生き方にせまるー」

いすみ市立夷隅小学校 6年 藤平 結生

審査評

着想が新しく、ふみつけ板を使った実験の客観性、再現性が高い。地域の人口増減と関連付けた考察も大変よくまとまっている。

・財団科学賞

「女王アリの観察パート5 !!

・いままでのなぞが明かされる !!

・複数の女王アリが協力する子育て」

松戸市立小金小学校 5年 稲村 拓哉

審査評

仮説を立て、検証する手順がしっかりとしている。自分の観察から考えを組み立てることができている。

「フウセンカズラのひみつ パート6」

千葉市立真砂西小学校 6年 樋口 梁果

審査評

両性花と雄花の存在理由を明らかにし、わかりやすくまとめている。これまで6年間にわたって続けてきた研究の集大成となっている。

★第63回日本学生科学賞

・入選3等

「そんなバナナ!? パート2

～バナナを甘くする方法～」

千葉市立緑が丘中学校 2年 宮坂 直太郎

宮坂 賀子

審査評

バナナの糖度、塩分、pH、細胞の大きさ、食物繊維の変化など様々な視点から実験を行い、丁寧にデータをとって研究されている。

★第78回全日本学生児童発明くふう展

・特許庁長官賞 「未来のランドセル」

柏市立手賀東小学校 4年

ヴァイフウィンクル リアム 漸

審査評

プログラミングを生活に有効的に活用している作品である。プログラムのアルゴリズム

もよく思考されている正に未来の作品である。
※他にも千葉県から20人の児童生徒が入賞した。

詳しくは県総合教育センターWebサイト「優秀作品選集」を御覧いただきたい。

令和2年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展は、科学論文の部（高等学校の部）のみの開催となる。10月19日（月）県総合教育センターで一般公開される予定である。

※**審査評**は「優秀作品選集」のものを抜粋。

